

勝利を得る初穂が従う小羊

聖書：啓 14:1-5. 創 5:22-24. ヘブル 11:5-6. マタイ 24:45-51

勝利を得る初穂が従う小羊	
初穂は小羊に従う	啓 14:1 わたしが見ていると、見よ、小羊がシオンの山の上に立っており、彼と共に十四万四千人がいて、小羊の名と彼の父の名がその額に記されていた。 啓 14:4 これらの者は、女によって汚されていない者である。彼らは童貞である。これらの者は、小羊の行く所へはどこへでも従って行く。これらの者は、神と小羊への初穂として、人々の間から買い取られたのである。
神と共に歩み、忠信に仕える	創 5:22 エノクはメトセラを生んだ後、三百年、神と共に歩み、息子たちと娘たちを生んだ。 マタイ 24:45 そこで、主人が家族の上に任命して、時に応じて彼らに食物を与える忠信で思慮深い奴隷は、だれであろうか？

I	初穂	A-C	初穂の携え上げ
		D-F	初穂は神を満足させるため
II	小羊に従う 神と共に歩む	A	神と共に歩む
		B	信仰よって歩む
		C	エノクが携え上げられた最初の人
III	小羊に従い主の委託において忠信に仕える	A-C	忠信で思慮深い奴隷が家庭を管理し、時に応じて彼らに食物を与える
		D-E	悪い奴隷の心とその仲間に対する扱い

朝ごとの食物 第45週 「勝利を得る初穂が従う小羊」			
日	段落/思路	主題	要点
1	初穂	初穂の携え上げ	初穂は生きている勝利者です 携え上げの二つの面とその予表。
2		初穂は神の満足のため	小羊と御父と一であり、小羊と御父に属しています 円熟した命を持ち、神を表現し代行する。
3	小羊に従い 神と共に歩む	エノクは神と共に歩み、神は彼を取り去られた	エノクは最初に携え上げられた人です 神と共に歩んだ人です
4		神と共に歩むとは、信仰によって歩むことです	信仰は、「神は…である」ことを信じること、わたしたちは「ない」ことを暗示しています 信仰が意味するのは、神が彼を尋ね求める者たちに報いてくださることを信じることです
5	小羊に従い 主に忠信に仕える	忠信で思慮深い奴隷が時に応じて食物を与える	忠信で思慮深い奴隷は家庭の管理者です 忠信で思慮深い奴隷は時に応じて食物を与える
6		邪悪な奴隷の心とその仲間に対する扱い	邪悪な奴隷は心の中で、主人は来るのが送れる、と言います 仲間を打ちたたくことと、この世的な事柄に酔いしれた人々と交遊を持つこと

携え上げ	その時	その場所	関連する御言葉
男の子、死んだ勝利者	大患難の前	神の御座へ	啓 12:5 彼女は一人の子、男の子を産んだ。…彼女の子供は、神に、神の御座に携え上げられた。
初穂、生きている勝利者	大患難の前	天のシオンへ	啓 14:1…小羊がシオンの山の上に立っており、彼と共に十四万四千人がいて、小羊の名と彼の父の名がその額に記されていた。
この時代に生きているその他の勝利者	大患難の前	キリストの御前(臨在)に	マタイ 24:40-41 その時、二人の人が畑にいと、一人は取られ、一人は残される。二人の女がうすをひいていると、一人は取られ、一人は残される。
二人の証し人	大患難の終わる前	天へ	啓 11:12 二人の預言者は、天から大きな声自分たちに、「ここに上って来なさい」と言うのを聞いた。そこで、彼らは雲の中で天へ上って行った。彼らの敵はそれを見た。
後期の勝利者	大患難の終わる前	ガラスの海の上に	啓 15:2 またわたしは、火と混ざり合ったガラスの海のようなものを見た。さらに、獣と彼の像と彼の名の数字に勝ち抜いてきた者たちが、そのガラスの海の上に立ち、神の豎琴を持っているのを見た。
大多数の信者	大患難の終わりに	キリストの裁きの座	啓 14:16 そこで、雲の上に座している方がその鎌を地上に投げると、地は刈り取られた。

初穂

I. 啓示録第 14 章 1 節から 5 節は、勝利を得る初穂が従う小羊としてのキリストを啓示しています：

*初穂の携え上げ

- A. 初穂は、生きています勝利者であって、彼らは神の畑で最初に熟した者となります。このゆえに、彼らは神と小羊への初穂として、収穫の前に刈り取られます：
1. 初穂は天のシオンの山に、第三の天の神の住まいに取り去られて、神とキリストの臨在の中にいるようになります。
 2. 携え上げの意義は、主の臨在の中へともたらされることです。主の臨在の中へともたらされるために、わたしたちは今日、彼の臨在の中になければなりません——ルカ 21:36. II コリント 2:10. ホセア 6:2. II テモテ 4:8. 使徒 26:16。
 3. 携え上げは、敵を打ち破り、神を満足させるためです。主は、男の子が主の敵と戦うことを必要としていますが、それにもまして、彼はご自身の満足と享受のために、初穂を必要としています——啓 12:5. 14:1, 4 後半。

*携え上げの二つの面とその予表

- B. 聖書は、携え上げの二つの面を啓示しています。すなわち、大患難の前の勝利者の携え上げと、大患難の終わりの大多数の信者たちの携え上げを啓示しています——マタイ 24:40-41. ルカ 21:36. 啓 3:10. I テサロニケ 4:15-17. 啓 12:5. 14:1。
- C. レビ記第 23 章 10 節で、携え上げの予表、すなわち畑で熟している作物の予表を見ます——マタイ 13:24. 啓 14:14-16：
1. 神の作物を刈り取ることは、わたしたちが携え上げと呼んでいるものです。この刈り取ることは、信者たちが地から取り去られることを示します——マタイ 13:30, 39 後半。
 2. 作物の一部 (初穂) は、早く熟して、早く刈り取られます。残りの作物 (収穫物) は、後に熟して、後に刈り取られます。
 3. 啓示録第 14 章によれば、二種類の携え上げ、すなわち初穂の携え上げと、収穫物の携え上げがあります——4 節後半, 14-16 節。

*初穂は神を満足させるためです

- D. 初穂は神の新鮮な享受として、シオンにある神の家に携え上げられます。これは、神の満足のためです——出 23:19 前半. レビ 23:10. 参照、ヨハネ 20:17 前半。

*初穂は小羊と御父と一であり、小羊と御父に属しています

- E. 初穂は、小羊の名と彼の御父の名がその額に記されています。これは、彼らが小羊と御父と一であり、小羊と御父に属していることを表明しています——啓 14:1 後半。

*初穂は最も早く円熟したものであり、円熟の命を持ち、神を表現し、代行します

- F. 初穂は、神の作物の中で最も早く円熟に達したものです——ヘブル 5:14—6:1. I コリント 2:6. エペソ 4:13. ピリピ 3:15：
1. 造り変えられるとは、わたしたちの天然の命において変えられることです。円熟させられるとは、わたしたちを変える神聖な命で満たされることです——ローマ 12:2. エペソ 3:19 後半。
 2. 神の表現のために、円熟する必要があります。円熟した命だけが、神のかたちを帯び、彼の統治権を行使することができます——創 1:26. ローマ 5:10, 17, 21。

小羊に従い神と共に歩む

II. わたしたちは小羊に従い、円熟へと前進して初穂となるために、信仰によって神と共に歩み、死を逃れ、神に喜ばれる証しを得なければなりません：

*神と共に歩む

- A. 死を逃れ、神に喜ばれる証しを得る道は、神と共に歩むことです——創 5:22-24. ヘブル 11:5-6：
1. 神と共に歩むとは、神を踏み越えないこと、傲慢にならないこと、自分の観念や願望にしたがって事を行なわないこと、時代の潮流にしたがって事を行なわないこと、神なしに何も行なわないことです——参照、詩 19:12-13. ヨシュア 9:14 後半. ルカ 24:15。
 2. 神と共に歩むとは、神をわたしたちの中心またすべてとすることであり、神にしたがって、神と共に生き、事を行なうこと、すなわち、彼の啓示と導きにしたがって生き、事を行なうこと

- であり、彼と共にすべてを行なうことです——ローマ 8:4, 13-14. ガラテヤ 2:2 前半. II コリント 5:14-15.
3. 神と共に歩むことが意味するのは、わたしたちが何であるかによって、あるいはわたしたちが行なうことができることによって生きるのではなく、キリストご自身である不死の命によって生きるということです——4, 9 節。
 4. 神と共に歩むとは、神との習慣的な交わりを持つこと、主との絶え間のない接触の中にいること、彼の絶え間のない注入の下にいることです——I ヨハネ 1:3. ピリピ 4:6. II コリント 3:16, 18.
 5. 神と共に歩むとは、絶えずわたしたちの霊を活用して、ほめたたえられるべき三一を享受することです——ユダ 14, 19-21 節。
 6. 神と共に歩むことは、自己と自己に属するすべてを否んで、わたしたちが彼と一になることを暗示しています。それは、わたしたちが自分自身を彼にささげ、彼に抵抗しないで従い、彼にリードを取っていただくことを暗示しています——マタイ 16:24-25. II コリント 2:13-14.

*神と共に歩むとは、信仰によって歩むことです

B. 神と共に歩むとは、信仰によって歩むことです——II コリント 5:7. ヘブル 11:5-6 :

*信仰は、「神は…である」ことを信じること、わたしたちは「ない」ことを暗示しています

1. 信仰が意味するのは、「神は……である」ことをわたしたちが信じることです——1-2, 6 節. II コリント 4:13, 18 :
 - a. 信仰がなくては、神を喜ばせ、神を幸いにすることはできません——ヘブル 11:6 前半。
 - b. 「神は……である」ことを信じることは、彼がわたしたちのすべてであって、わたしたちは無であるのを信じることです——ヨハネ 8:58. 伝 1:2.
 - c. 「神は……である」ことを信じることは、わたしたちはないことを暗示します。すべてのことで、彼が唯一の方、唯一無二の方でなければならず、すべてのことで、わたしたちは無でなければなりません——創 5:24. ヘブル 11:5.
 - d. 「神は……である」ことを信じることは、わたしたちの自己を否むことです。全宇宙で彼はあり、わたしたちはみな無です——ルカ 9:23.
 - e. わたしは何かであってはなりません。わたしは存在すべきではありません。彼だけが存在すべきです。すなわち、もはやわたしではなく、キリストです——ガラテヤ 2:20.
 - f. タルソのサウロが回心した時、主は彼に「わたしは……イエスである」と告げました——使徒 9:5 :
 - (1) 主は次のように言っていました、「わたしは大いなる『わたしはある』である。わたしはある者である。あなたは、わたしがあること、あなたはないことを信じなければならない」。
 - (2) 最終的に、サウロは終わらされ、パウロが現れました——13:9.
 - g. これが信仰です。「ああ、何という喜び。何も持たず、無であり、栄光の中の生けるキリスト以外何も見ず、地上で彼の権益のほか何も顧慮しないことの喜び」(J・N・ダービー)。

*信仰が意味するのは、神が彼を尋ね求める者たちに報いてくださることを信じることです

2. 信仰が意味するのは、神が彼を熱心に尋ね求める者たちに報いてくださる方であることを、わたしたちが信じるということです——ヘブル 11:6. 創 15:1. ピリピ 3:8, 14 :
 - a. エノクの褒賞は最高の程度の命、すなわち死から逃れることでした——ヘブル 11:5 前半. II コリント 5:4. ローマ 8:6, 10-11. 5:17.
 - b. 主は報いてくださる方であり、わたしたちは彼を尋ね求める者となる必要があります——詩 27:4, 8. 42:1-2. 43:4. 73:25. 119:2, 10.

*エノクが携え上げられた最初の人、携え上げられるすべての勝利者の代表です

- C. エノクは、携え上げられた最初の人として、生きていた間に携え上げられるすべての勝利者の代表です——マタイ 24:37-51. 啓 14:1. ルカ 21:34-36 :
1. わたしたちが携え上げられることは、わたしたちが神と共に歩むことによって、神聖な命の中で円熟することにかかっています——ヘブル 6:1 前半。
 2. エノクは絶えず神に向かつて、神と共に、日夜、三世も歩み、神にますます近くなり、毎日ますます神と一になり、ついに「神が彼を取られたので、彼はいなくなった」——創 5:24. 参照、雅 8:5 前半。

小羊に従い主の委託において忠信に仕え、時に応じて食物を与える

Ⅲ. わたしたちは小羊に従い、円熟へと前進し、初穂となるために、主の委託において忠信に奉仕し、神を食物として神の家族の者たちに与えなければなりません。それはわたしたちが来たるべき王

国において、キリストをわたしたちの褒賞として勝ち取るためです——マタイ 24:45-51 :

家庭の管理者

*** 神は家庭、家庭の行政、すなわちエコノミーを持っています、**

A. 神は家庭、また家庭の行政、すなわちエコノミーを持っており、彼ご自身を食物として彼の家族の者たちに分与し、彼ご自身を表現させます—— I テモテ 1:4, 3:15, エペソ 2:19。

*** 忠信で思慮深い奴隷は家庭を管理し、時に応じて彼らに食物を与えます**

B. 神は彼の家族の上に忠信で思慮深い奴隷たちを、家庭の管理者、執事、供給の経路として任命して、時に応じて彼の民に食物を与えるようにさせます——マタイ 24:45, I コリント 9:17, エペソ 3:2, I コリント 4:1, I ペテロ 4:10, ピリピ 1:25。

*** 食物を与えるとは、召会の中で、神の言葉とキリストを命の供給として信者たちに供給することです**

C. 「彼らに食物を与える」とは、召会の中で、神の言葉とキリストを命の供給として信者たちに供給することを指しています。命を与える霊であるキリストは、わたしたちの食物であり、命の言葉の中で具体化され、実際化されています——ヨハネ 6:57, 63, 68, 使徒 5:20 :

1. 主をわたしたちの霊的な食物として享受して、わたしたちが他の人を養うことができるようになるために、わたしたちは彼の言葉を用いて祈り、思い巡らして、注意深く考察することを通してそれを味わい、享受しなければなりません——エペソ 6:17-18, 詩 119:15, エゼキエル 3:1-4。
2. わたしたちは祈りと言葉の務めに自分自身を専心させなければなりません——使徒 6:4, II コリント 3:6, 8, ヨハネ 7:37-39, 参照、ヘブル 7:25, 8:2。

邪悪な奴隷の心とその仲間に対する扱い

*** 邪悪な奴隷は心の中で、主人は来るのが送れる、と言います**

D. わたしたちが、心の中でわたしたちの主人は来るのが遅れると言うことは、今の邪悪な時代を愛し、主の出現を愛さないことです——マタイ 24:48, II テモテ 4:8, 10, 参照、使徒 26:16 :

1. わたしたちはどん欲に気をつけなければならない、自分のために宝を蓄えずに、神に対して富んでいなければならない——ルカ 12:15-20, II コリント 6:10, エペソ 3:8。
2. 「ロトの妻を思い出さない」は、この世を愛する信者たちに対する厳粛な警告です——ルカ 17:31-32, 参照、ローマ 1:21, 25。
3. わたしたちは目を覚まして祈り求めて、主の来臨の日が罨のように、突然わたしたちに襲いかかることがないようにしなければなりません——ルカ 21:34-36, 参照、マタイ 2:3。

*** 奴隷仲間を打ちたたく**

E. わたしたちの奴隷仲間を打ちたたくとは、仲間の信者たちを虐待することです——24:49 前半, 18:3-7, 使徒 9:4 :

1. わたしたちは自分の仲間の信者たちを裁いたり、罪定めしたりしてはならず、彼らに対して親切で情け深くあり、神がキリストにあってわたしたちを赦してくださったように、彼らを赦さなければなりません——ルカ 6:37, エペソ 4:31-32。
2. わたしたちは自分の兄弟たちをののしったり、批判したりしてはならず、彼らを自分自身よりすぐれていると思わなければなりません——I コリント 6:10, ピリピ 2:2-3, 29 :
 - a. 兄弟をののしることは、攻撃的な言葉で荒々しく彼を批判したり、侮辱したりすることです。
 - b. ののしる言葉を聴く人は、ののしる言葉を語る人と同じ責任を負います。そのような言葉は、からだを損ないます。
 - c. 生まれつき他の人たちを批判するのが好きな人に、神は決して権威を託しません。
3. わたしたちは自分の仲間の信者たちの上に権力を振るってはず、奴隷として彼らに仕えて、命を与える霊である復活したキリストをもって彼らを養わなければなりません——I ペテロ 5:3, マタイ 20:25-28 :
 - a. 人が聖徒たちの上に権力を振ることが意味するのは、彼らに代わって決定し、彼らがどこに移住すべきかを告げることによって、生活の中で主に置き換わり、こうしてキリストの頭首権と主権を侮辱することです。
 - b. もし、わたしたちが他の人たちに、祈ったり、主の導きを尋ね求めたり、からだの中での正常な交わりを持ったりするように励まさないで、彼らの行くべき場所を彼らに告げるなら、これは、主に対する最大の侮辱です!

***この世的な事柄に酔いしれた人々と交遊を持つ**

F. 酔っぱらいどもと食べたり飲んだりするとは、この世的な事柄に酔いしれた、この世的な人々と交遊を持つことです——マタイ 24:49 後半. 参照、エペソ 5:18:

1. 信者たちは神聖な性質と聖なる身分のゆえに、未信者たちと同じくびきにつながれるべきではありません。これは結婚や事業にだけでなく、信者と未信者の間のあらゆる親密な関係に適用されるべきです——II コリント 6:14. I コリント 15:33. 参照、箴 13:20。
2. わたしたちは若い時の欲から逃れ、純粋な心で主を呼び求める人たちと共に、すべてを含むキリストを追い求めなければなりません——II テモテ 2:22。

結びの言葉 小羊に従い、初穂となる	
生きて携え上げられる	彼の臨在の中へと
命において	信仰によって、神と共に(歩む)
奉仕において	時に応じて忠信に分け与える